

学校だより “あいかわ”

学力学習状況調査結果 臨時号 H30.9.26

文責 甲府市立相川小学校 校長 山坂 洋

全国学力・学習状況調査(平成30年4月17日・6年生実施)の結果について

本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的として全国の6年生を対象に一斉におこなわれています。

調査内容は、大きく「①教科に関する問題(国語・算数・理科)」と、「②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」に分かれ、国語・算数は[A：主として「知識」に関する問題]と、[B：主として「活用」に関する問題]の2つに分かれています。理科は、A・Bに分けて出題せず、知識・活用を合わせて質問しています。また、子どもの生活の様子や意識に関する調査を、質問紙で行っています。

7月に文部科学省から本校の結果が送付され、本校でも運動会等学校行事への取り組みと並行して、結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を皆様にお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきたいと思えます。

なお、調査に参加しました6年生には、個別懇談等を利用して具体的な課題等について説明していく予定です。

## 1 全国平均や山梨県の結果との比較

①国語A 相川小は、全国平均や山梨県平均を上回りました。

②算数A 相川小は、全国平均や山梨県平均を上回りました。

③国語B 相川小は、全国平均や山梨県平均を上回りました。

④算数B 相川小は、全国平均や山梨県平均を上回りました。

⑤理科 相川小は、全国平均や山梨県平均を上回りました。

### ⑥質問紙調査

おおむね、どの質問も相川小児童の回答は良い生活習慣の傾向が現れました。全国の傾向では、生活習慣の「新聞を読む」という項目で、読む頻度が高い児童ほど、算数の活用力(算数B)の回答で高い結果が出ました。相川小では、新聞を読むという質問で、「週1～3回」「ほぼ毎日」と答えた児童数は、全国平均より少し少ない結果です。新聞を読む習慣作りが課題です。

(裏面に続きます。)

## 2 成果と課題

### ①国語

- ・選択式の基本的な問題は、大変高い正答率です。
- ・漢字は「積極的」という問いを除いて、高い正答率です。
- ・「主語と述語の関係などに注意して、文を書く」「・・・について詳しく書く」「自分の考えを書く」などで誤答が相川小・全国・山梨県とも多かったです。教科書の音読等で、正しい文章の定着と、漢字のさらなる定着を意識していきます。日々の授業の中でも、自分の考えを書き表していくという作業を多く取り入れていきたいと思います。

### ②算数

- ・高い正答率です。正確に計算することや数字や式の意味については、基本が定着しました。その中では、除法に関する問題が、正答率が少し低めでした。さらに誤答が多い問題を分析すると、立式の根拠や計算の仕方を説明する活動を多く取り入れる必要があることがわかりました。また、出した答えの意味を考え、答えを日常の場面に戻し意味づけることを繰り返す必要があるので、授業で気をつけていきます。

### ③理科

- ・全体的に高い正答率です。
- ・課題を挙げるとすると、「人の関節の仕組み」や「食塩の実験から重さや体積に関する変化」などに関して低い正答率です。授業で、教科書だけでなく、模型や自分・友だちの体の動きを観察するなど、より具体的な授業を目指します。また、ノートにまとめるとき、実験のめあてとまとめをセットで意識させたり、友だちと相互にノートを確認したりするなどの授業形態をできるだけ入れるような必要があることがわかりました。

### ④質問紙調査から

- ・授業以外の読書をどれくらいしているかという質問には、「1時間以上する」と答えた児童が、全国平均を大きく上回っています。地域の図書館ボランティアや保護者の読み聞かせボランティア活動の成果が上がっていると考えられます。今後も、読書に親しめる環境作りを続けたいと思います。
- ・「宿題をしている」「予習・復習をしている」の割合は大変高く、自学ノートなどへの取り組みの成果が見られます。しかし「計画を立てて勉強している」は苦手な傾向がでています。授業の中でも見通しをもつくせをつけていきたいと思います。
- ・自尊感情に関する「自分には良いところがある」が低い結果です。今後は、児童が自分の良さや可能性を自分自身で認識できるように、工夫をして教師が関わっていくことや、他者の価値や良さをお互いに尊重できるような人間関係を作れるよう、道徳、学級活動、児童会活動や休み時間など、機会を捉えていきたいと思います。